教育目標
○自ら学ぶ生徒
○自他を思いやる生徒
○健康でたくましい生徒

学校だより
ひらく

第１８号
平成２７年１０月１４日発行
須賀川市立第三中学校
ＴＥＬ　７３－２３７７
発行責任者：校長　高崎則行

福島県中学駅伝に関しては、顧問の直井康幸教諭が、学年だよりでその思いも含めて余すところなく伝えていますので、以下転載し、１、２年生とその保護者の皆さんにもご紹介します。

快挙！　福島県中学校駅伝競走大会

男子　３位入賞（東北大会出場権獲得）

区間賞　４区関根修斗くん　６区安藤充志くん受賞

１区　佐久間雄也（３年）

２区　鈴木　啓佑（３年）

３区　佐久間幸輝（３年）

１０月９日（金）、秋晴れの中、西郷村台上周辺コースで開催された福島県中学校駅伝競走大会において、７年ぶりに出場した男子チームが見事第３位に入賞し、三中初の東北大会への出場権を獲得しました。

大会前に優勝候補と話題となり、プレッシャーの中の試走や大会参加への調整でした。調子があがらず、８位入賞も危ぶまれた状況でした。しかし、優勝こそなりませんでしたが、堂々の３位入賞で須賀川三中に新しい歴史を刻むことができました。

出場した６選手は、３年生５名、２年生１名での構成でした。各行のエースが集まる１区を東北陸上大会３０００ｍ走８位入賞の実績を持つ佐久間雄也くんが、トップとわずか４秒差の４位で、２区鈴木啓佑くんにつなぎ、順位こそ６位でしたが、トップ集団に食らいつき、３区佐久間幸輝くんにつなぎました。佐久間幸輝くんは４位にもどし、４区関根修斗くんへ、関根修斗くんは区間賞獲得の力走でタイム差なしの３位へ順位を上げ、５区２年天倉朋貴くんへつなぎました。天倉朋貴くんは、順位こそひとつ落として４位でしたが、５位以下を大きく引き離し、入賞を確実にしました。６区アンカー東北陸上大会８００ｍ走４位入賞の安藤充志くんは、中継時３４秒あった３位との差をじりじりと詰め、残り３００ｍで追いつ

（裏面に続く）

４区　関根　修斗（３年）

５区　天倉　朋貴（２年）

６区　安藤　充志（３年）

き、ラストスパートで引き離し、４位に３秒差をつけ大逆転で３位入賞を果たしました。一度もトップにこそ立ちませんでしたが、試走時のタイムを全員で約２分３０秒縮める力走で、顧問は涙、サポート部員、応援で参加のチームメートを含め、生徒も大満足の大会となりました。

ここに至るまでの生徒諸君の３年間の努力は勿論ですが、保護者のみなさま、地域、学年・学校全体で盛り上げていただいた全ての教育活動の成果と感じ、大会のご声援とあわせて、深く感謝申し上げます。

１０月３０・３１日、宮城県、グランディ２１宮城県総合運動公園内コースで開催される東北大会でも県代表として、精一杯走ってきたいと思います。また、現在１１月１５日におこなわれる「ふくしま駅伝」須賀川市チームのメンバーとしても、本校男女駅伝部員が活動しています。２組佐久間雄也くんは、年明け広島市で開催される都道府県対抗駅伝の福島県チームの候補選手としても練習会に参加をしています。紹介とあわせて、さらなるご声援のお願いをいたします。

（以上、第３学年だより「週刊　朝日」№２４（10月13日発行）より）

できることに集中して、すべてを出し切った

私たち応援チームは、折り返し地点の手前、坂の頂上付近に陣取って、長い上り坂を駆け上がってくる選手を叱咤し、折り返して下り坂で先行を追い上げる選手を激励する考えでした。

アンカーの安藤くんが、折り返して目の前を通り過ぎた時点では、東北大会出場権を得る３位には届かないのではないか、先行する選手との距離はそのくらいありました。ところが、大逆転の末の３位ですから、ゴール付近でレースを見守っていた本校選手団、保護者の皆さんの歓喜ぶりはいかばかりであったか、想像に難くありません。

顧問の二人は、「５区の天倉がレースをつないでくれた時にはもう涙が頬を伝っていました。」「私は、駅伝で初めて泣きました。」、そして「選手たちはすごいですね。」と口をそろえて讃えていました。選手たちも全員涙で顔をくしゃくしゃにしていたそうで、会ったときは、皆その名残を残した表情で喜びを噛みしめているようでした。

この様子は、顧問と選手たちが現状をよく自己分析し、冷静にレースプランを立て、そして見事に成し遂げたということを如実に物語っているのではないでしょうか。３学年だよりの記事もそのことを裏付けています。私たちが送り出したチームは、できることに集中し、持てる力をすべて出し切ったのです。

選手たちも、顧問も、悔いのないレースをして達成感を味わえたことを何よりもうれしく思います。そして、保護者の方はもとより、地域の方々、市民の皆様にも喜んでいただくことができたことも、大きな喜びに感じているところです。

伝統の「華王祭」
職員の出し物にもご期待あれ

いよいよ校内文化祭「華王祭」が、明日、明後日となりました。伝統を強く意識し、生徒たちも頑張っていますが、３年生の教員を中心に行う職員の出し物も、華王祭の伝統なんだとか。

私たちも、全員で練習開始です。出し物は、中島みゆきの「糸」、この歌がまたいいんです。

なぜ巡り会うのかを私たちは何も知らない
いつ巡り会うのかを私たちはいつも知らない
どこにいたの　生きてきたの
遠い空の下ふたつの物語
縦の糸はあなた　横の糸は私
織りなす布はいつか誰かを温めうるかもしれない

なぜ生きてゆくのかを迷った日の後のささくれ
夢追いかけ走って転んだ日の後のささくれ
こんな糸が何になるの
心もとなくて震えてた風の中
縦の糸はあなた　横の糸は私
織りなす布はいつか誰かの傷をかばうかもしれない

縦の糸はあなた　横の糸は私
会うべき糸に出会えることを人は幸せと呼びます

私たちは生徒の幸せを願って歌います。しかし、何せ全員がシャイなので、歌い終えるやいなや、あっという間にいなくなるかもしれない。

本校ホームページでもご覧いただけます。アドレスhttp://www.sukagawa.gr.fks.ed.jp/?page_id=196